



ぶらりらいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 204

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
書名の後の（ ）の数字は請求記号です。

問) アイロンの変遷について調べたい。

答) → → 161件ヒット

これだと件数が多いので、開架の資料で探したい場合は上記の画面から、

→ → → 6件ヒット

『事物起源辞典 衣食住編』(031/J46)

『日録20世紀 第5巻』(209/N71/5)

『昔のくらしの道具事典』(383.9/Ko12) などがあります。

➤ 開架以外では下記のような資料があります。

『道具学論集 第22号(2017年3月)』(383/D89/22) 閉架

『われ、国民学校四年生』(384.5/Su96) 閉架

『日に新た松本電器75年の歩み』(540/Ma88) 閉架

『東京芝浦電気株式会社八十五年史』(540/To46) 閉架

➤ 関連ワードの「火のし」で調べてみてもよいでしょう。

『くらべてみよう！昭和のくらし3』(382/N88/3) 開架

➤ また、金沢くらしの博物館のホームページには、学習資料「昔のくらし」の中にアイロンの項目があり、「火のし」や「炭火アイロン」などの写真も掲載されています。

http://www.kanazawa-museum.jp/minzoku/teachers/data_detail01.html

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

比叡山にあったカタパルト



滋賀県大津市のケーブル坂本駅とケーブル延暦寺駅間を結ぶ「比叡山鉄道線」、通称「坂本ケーブル」は、昭和2年（1927）の開業以来、比叡山延暦寺の表参道として、また全長2025mの「日本一長いケーブルカー」として親しまれています。

太平洋戦争末期、この坂本ケーブルが海軍に接收されたことをご存知でしょうか。

比叡山頂に特攻機「桜花」射出用カタパルト〔※地上発射型として開発された「桜花四三乙型」はカタパルト（射出機）によって発射された〕を含む訓練基地の設置が決まり、坂本ケーブルはその建設資材の運搬に用いられることになったのです。

昭和20年（1945）5月、坂本ケーブルの全施設が海軍に接收されました。ケーブルカー本体は客室の天井と側壁を外されて運搬用の貨車として、駅舎も資材として基地の建設に使用され、運転士たちは運搬作業に従事しました。

比叡山への基地建設は来る本土決戦を想定したもので、「アメリカ軍の上陸が想定される伊勢湾や紀伊半島、大阪湾までは航続距離200キロメートルを超える桜花四三乙型でカバーできる」点が大きいとみられています。

これらの計画は軍事機密とされ、一般の人びとの比叡登山は禁止となり、僧たちも山門を出ることを許されない中で、カタパルトを含めた訓練基地は秘密裏に建設が進められました。竣工予定日の昭和20年8月15日に終戦を迎えました。

基地施設は米軍の接收前に破壊され、戦後しばらく、その跡地は「もたて山（藻立山）キャンプ場」として使用されました。

平成25年（2013）夏、比叡山にあったこれらの基地施設を写した写真を含むアルバムが大津市内で発見され、産経新聞で報じられました。京都第三中学校（現山城高校）の写真部が撮影したと思われるもので、カタパルトの写真のほか、「比叡山飛行場」と題した略図が含まれており、比叡山の基地施設の全貌が明らかになりました。

また、昭和20年10月に米軍が撮影したと思われる映像に、比叡山中の基地施設が映っていることが「豊の国宇佐市塾」（大分県宇佐市）によって確認され、平成27年8月19日付の産経新聞で取り上げられています。

現在、ケーブル延暦寺駅の周辺には当時の様子を偲ばせるものは何も残されていませんが、「霊峰」とよばれる比叡山にも戦争の記憶が秘められていたのです。

参考：『本土決戦と滋賀』（216.1/Mi97）開架

比叡山鉄道株式会社ホームページ <http://www.sakamoto-cable.jp/>

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ NO. 204

2017年9月20日 発行 / 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1